

いぶり基金特別枠 事業実施計画書

団体名 一般社団法人 Wellbe Design

申請事業名 思い出の品のサルベージ活動「Omoidori

Project」～厚真町民による吉野地区被災資料修復保存活動

支援～

助成要望額 450,000 円

事業背景

当法人では 2016 年の台風 10 号災害 を契機に、平成 30 年北海道胆振東部地震においても被災世帯や被災地域の思い出の品の洗浄・修復等の支援活動を行っている。これらの活動は Omoidori Project *と称し、これまで数万枚に及ぶ写真の修復等を行ってきた。平成 30 年北海道胆振東部地震においても、むかわ町及び厚真町の個人からのご依頼を受けてこの活動を実施してきたほか、被害が甚大だった厚真町吉野地区の思い出の品については、厚真町役場と協働した保存活動を展開してきた。

*Omoidori とは、(株 PFU が販売するアルバム スキャナー のことであり、2016 年の活動時に同社製品開発者から 8 台の機材提供を受けている。

厚真町吉野地区の土砂撤去作業においては、厚真町の開拓期からの歴史資料が発見された。厚真町では①吉野地区の歴史文献資料として恒久的に保存すること、②胆振東部地震を後世へ伝えるための資料とすること、③災害記憶や防災意識の持続化のため、修復作業は住民の参加を得ることを目的に、令和 4 年度に「厚真町吉野地区被災資料修復保存業務」を当法人に委託し、これまで作業を継続してきた。しかしこの活動はコロナ禍の影響を受け、予定していた修復作業が遅滞し引き続きの活動が必要な状況である。

事業目的

当法人では令和4年度に厚真町から「厚真町吉野地区被災資料修復保存業務」を委託しているがこの業務はあくまでもボランティアなものであり、委託料の全額がスタッフの移動にかかる交通費に充てられているほか、修復が必要な資料の量と劣化の状態、更には住民の参加の減少などから、委託内容以上の活動が行われているのが実態である。令和5年度においては同事業を厚真町が継続することができず、このままでは残りの資料の修復保存が行えないまま劣化が進み、修復不能となってしまうほか、これまで実施してきた活動も無意味なものになってしまう恐れがある。吉野地区の住民が歩んできた歴史と災害記憶の伝承に向け、この活動を遂行することが重要であると考え、残りの資料の修復が完了する見込みの7月末までの活動を支援いただきたい。

事業実施による成果(2~3年後までをイメージしてお書きください)

直接的な受益者：厚真町

間接的な受益者：国民（修復後の資料は今後建設される震災遺構で展示されるため）

- ①吉野地区の歴史文献資料として恒久的に保存することができる
- ②胆振東部地震を後世へ伝えるための資料を保護することができる
- ③厚真町民に対する 災害記憶や防災意識の持続化 を行うことができる

事業収支予算

事業実施初年度収入見込み

当助成金	450000 円
自主財源	27000 円
その他	
合計	477000 円

事業実施初年度支出見込み

支出項目	金額
スタッフ交通費（ガソリンほか）	$270 \text{ km} \times 30 \text{ 円} \times 20 \text{ 回} = 162,000 \text{ 円}$
ボランティア交通費（ガソリンほか）	$100 \text{ km} \times 30 \text{ 円} \times 5 \text{ 回} = 15,000 \text{ 円}$
スタッフ活動費（1名）	$55,000 \text{ 円} \times 4 \text{ 月} = 220,000 \text{ 円}$
ボランティア活動費（複数名）	$3,000 \text{ 円} \times \text{延べ } 20 \text{ 名} = 60,000 \text{ 円}$
消耗品費	20000 円
合計	477000 円

※足りなければ行を追加するか別紙収支予算書を添付してください。

2年目以降の収支見通しについて分かっている範囲でご記載ください

（記載例「2年目は何々を実施するために~万円の事業費が必要と見込まれており、特別枠助成のうち~万円を充当する予定」）
本事業により修復は完了する見通しであり、事業としては終了する。その後は事業の経過、成果を記録として残していく。